

子どもたちの未来のために

川中子区在住。「みのゝれは現在良い結果を出していると思うので、このまま続いて欲しい」と話す貝塚さん。



みのゝれ支援隊広報部門 みのんぱ編集局

貝塚 勇 さん

みのゝれと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.20

真っ青な地球を未来の子どもたちへ残すために日々努力している人たちを目にする。ここ小美玉市でも地球に優しいエコロジーな家造りに情熱を注ぐ貝塚さん。設計事務所を始めて二三年。生命を守る住まいづくりを築比地氏（木の住まいづくりネットワーク代表）から教えられ、研究・啓蒙・実践活動をはじめ一三年になる、貝塚勇さん取材する。

未来に残す未来につなぐ

貝塚さんとみのゝれの出会いは、木の住まいネットワークが主催して開催した「二〇〇七健康展茨城」。茨城事務局の局長としてイベントを総合プロデュースし、茨城県で初めての健康展を行なった。「健康に暮らせる住まいと地球温暖化」をテーマに、「杉板断熱住宅」の実物大の構造模型と、使用する国産の無添加素材を展示。さらに、「杉板断熱住宅」に不可欠な、大工技術を始めとした伝統技術の一部を上演。これまでに完成した「杉板断熱住宅」のパネル展示や、杉板断熱住宅が地球温暖化防止に貢献する仕組みを展示した。企画展の内容が茨城新聞やNHKの朝・昼のニュースで紹介され反響を呼んだ。入場者数も予想を二割以上も上回った。

「貝塚さんが設計士になったのは、建築学を志した頃は設計士が少なかったため、食べるに困らないだろう」と考えたから。しかし、設計士の仕事は奥が深かった。建築家でしか出来ない仕事があると思ひ、自分ひとりではなく多くの人が幸せになれるような家造りを心がけ、一つの住宅から色々な発想を生んだ。自然の恵みから生まれた住まいの設計だけでなく、家具のデザインや喫茶店、本屋などの設計も手がけている。

「文章を書くのが苦手」という貝塚さんは、自分を鍛えるために編集局に入ったという。入って良かったと思うことは、取材先で色々見たり聞いたりできること。最近では「たまり太鼓」を取材した。「身近にいても分からない（知らない）事がたくさんあるので、自分でも勉強になる」と貝塚さん。また、小美玉市茨城空港利用促進協議会委員としても活動。現在、みのゝれを会場に「第一回小美玉ゆめ未来芸術展」を開催している。「茨城空港に架けるワタシの夢」をテーマに、小美玉で育ち学び無限の可能性を秘めた子どもたちが、茨城空港から未来へ羽ばたく夢を描いた作品総数892作品を展示している。

「小美玉を担う子ども達のために関わっていくことが一番大切なこと。たとえ今すぐ結果が出なくても、未来に役立ってくれば良いなと思っています。子ども達に、空港ができることについて考えてもらおうきっかけになればと考えている。合わせて、小美玉の物産なども多くの人に分かってもらいたい」と語る貝塚さん。

開催期間は、今月二四日（土）まで。みなさんも小美玉の未来を感じる「ゆめ未来芸術展」に足を運んでみてはいかがですか。

（藤田佐知子）